

¡Hola, amigos!

第066号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。

2005年06月25日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ



「再々開お知らせ」の巻

皆さんこんにちは。長らくお待たせしました。カァディスからの長い長い手紙の再々開です。相変わらずの長っパナシにまたお付き合いください。

ご存知のとおり、私達は3月末、日本に一時帰国し、二ヶ月間を横浜で過ごしていました。5月末にカァディスに帰って来たのですが、しばらくは身辺整理に忙しく、また、今回日本で仕入れてきた新しいPCの慣熟運転にも追われていました。どうやら、慣れないXPにもなじんできて、ナントカなりそう、という見込みもついたので、久しぶりに ¡Hola, amigos! と声をかけることにしました。でも、新しいPCに戸惑いを感じることはしょっちゅうで、リンクなどで不都合が生じるかも知れませんが、そのときはどうぞご容赦ください。

今になってみると、これまで使っていた98SEは、私たちにとって初めてのPCだったせいもあり、すっかりその使い勝手に慣れてしまっていました。今度初めてXPに触れることになったのですが、馴染みがないということは恐ろしいもので、なんとも使いにくく閉口しています。こんな、手紙のような日記のような簡単なHPを作るためには多くの複雑な機能はむしろ邪魔で、つくづくもっと簡単なPCが欲しいと思ってしまうます。

最近、新しい物に慣れるのが容易でなくなりました。現役の頃は毎年一回、時には一年に二度も三度も船を乗換え、そのつど新しい船の性能を把握しなおす必要に迫られました。しかし、それがそれほど苦痛でもなく、むしろ、新しい船のクセや乗組員の構成や機器の違いや部屋の住み心地などを知ることは楽しみでさえありました。

それが「若さ」というものだったことを改めて思い知らされます。

このPCも、使いにくいとコボすより、まず頭を柔らかくにして慣れてゆくことが肝心ですね。古いものより進化していることは確かなのでしょうから・・・。

ところで、今回日本にいた時、複数のかたのPCで私たちのHPを見させてもらいました。今まで自分達の古い98SEでしか見たことがなかったので、日頃皆さんはどんな風に見てくださっているのか少々不安だったのです。

驚いたことに、そのほとんど全部がアップロードした原稿とも、その後自分のPCのブラウザで見なおしていたものとも、全く違うということでした。

文字はそれぞれのかたの目に合わせて読みやすい大きさに変えて見てくださればいいのですが、がっかりしたのは画像の違いでした。

プリントした時A4サイズに丁度収まるサイズで、なおかつ最良の画質をと心がけ、自分のPCで見る限りほぼ満足していたのに、ヨソのPCで同じものを見ると、全く意図していたものと違う画像だったのです。

古いのは、小さい・軽い・持ち運びがしやすい、の一点でのみ選んだものですからディスプレイは12インチです。けれども解像度は比較的高い。そこに原因があったようです。画像が膨らんで斜めの直線がぎざぎざに見えたりするのは感心しませんね。

今度はなるべくそうならないように工夫します。

こんなことを言っても今週はあまり画像はありません。新しいPCの試運転というつもりです。カメラも今回N用にと買ったオモチャ・デジカメに毛の生えた程度のもので、画像のほとんどはNの撮影です。N自身も試運転中。Rは文責のみ。***

「マドリー(D)の休日」の巻

楽しかった2ヶ月間のハマ暮らしを終え、また、カアディスに帰ってきました。

ルートは往路の逆、フランクフルトでマドリー(D)行きに乗り換えです。

往路のフランクフルトでは、乗り継ぎ時間は65分の余裕があったはずなのに、マドリー(D)～フランク間の Spanien 航空が大幅に遅れたため、広い空港内を駆け足駆け

足、動く歩道の上も走りに走って、やっとのことでセーフ。座席に着いたときは心臓バクバク、膝もがくがくという状態だったのです。人間は走って間に合ったのに、預けた荷物のうち一個は積み替えが間に合わず、成田着時には受け取れませんでした。

今度は乗り換え時間もたっぷりの2時間で、成田からのルフトハンザはぴったり定刻運行。この辺が往路マドリー(D)～フランクのспанエアーとは大きく違うところで、片や11時間の航程で遅れなし、一方は2時間半の航程で40数分の遅れ。もちろんこれは飛行機の飛ぶスピードが問題だったわけではないでしょう。そもそも定刻

をキッチリ守ろうナンテ意識があるのかどうか??

飛行機の遅れは単純な理由ではなく、その空港を利用する全ての航空会社が絡んだことではあるでしょうが、スペインでは鉄道だって始発駅で既に特別の理由なしに遅れることはよくあることです。どこやらの鉄道会社の人に聞かせたいような話です。

ところが、せっかくたっぷりの2時間があったのにこの空港の保税地域内にある売店のつまらないこと、お話になりません。帰りはゆっくり免税店のウィンドウ・ショッピングを楽しもうと言っていたのに全くのアテハズレでした。仕方なく乗り換え待合室で無然の2時間。時間ぴったりに着けてくれたドイツ航空はありがたいけど、空港内をもう少し楽しくしてくんないかなー。

マドリー(D)着は19時20分で、そのあと、物騒と言われている町をウロウロすべき時間ではないので、はじめから空港泊まりのつもりでした。往路泊まった空港至近のホテルを横浜の友人宅からネット予約をしておいたのです。成田でも出発の前日は空港構内のホテルに泊まって遠路の旅に備えました。

フライトの時間が朝早くだったりすると、飛行機に乗り込むまでもうかなり消耗してしまって、それでなくてもしんどいエコノミーの旅は、もうほとんど地獄ですね。Rは外地乗船のためずいぶんあちこちへ飛ばされましたが、そういう時、当日飛行場へ行く前に、業務連絡のため会社への出頭を命じられる事が多く、全くどういうつもりでそういうスケジュールを組むんだ?と毎回ハラがたったものです。

まあ、それはともかく、フライトの前日空港近くのホテルへ泊まるというのは実に合理的です。特に遠くへ飛ぶときは断然お勧めです。旅行社は各ホテルとタイアップし

て前泊・後泊という商品を出して割安に泊まれます。強行軍がコタエル年代の旅行者には特にお勧めします。今回、私達は往路も復路も前泊、帰路は後泊までしたことになります。この際ホテルのグレードなどは二の次、とにかく便利なロケーションでゆっくり休めることが全てです。もともと私達は一つ星ペンション専門ですからどんなお粗末なホテルでもびっくりしません。そして、折角通りがかつたんだから首都見物を二日間楽しんでゆこうという寸法です。

マドリー(ド)・バラハス空港に着いてすぐ、ホテルのシャトルバスに乗り込む前に、空港内にある国鉄予約窓口で、二日後のカアディス行きの急行の予約をしました。

こういうところがスペインで個人旅行をするとき、実に面倒な点です。カアディス行きの急行は一日にわずか2本しか無いのです。だから、わずか5時間の旅なのに、必ず予約をしないと乗れるかどうかわからないのです。自由席特急券なんていう便利なものはナイノデス。そして、予約をすると安心して乗れる反面、突然の変更、などとなるとまたまたシチ面倒です。でも、この煩わしさを我慢する事が「自由な旅」を楽しむということに連なるのでしょう。この面倒な手続き自体を個人の旅の楽しさそのものと考えたい。なんにつけ自由と不自由は背中合わせですね。

二日後の午後の便の切符を手に入れてヤレヤレ。これで、明日から二日間のマドリー(ド)の休日が確保されたか？ イヤイヤもう一つ、明日のホテルを探さなくては。今日のホテルを延泊すれば一番簡単ですが、空港から市内へはあまりに遠く、かつ不便。できればカアディス行き急行の始発駅アトーチャ付近のホテルを探したい。そこで、今度はホテル案内所へ。そして市内の中心部 Puerta del Sol プエルタ・デル・ソル近くの三ツ星を確保。その名も Hotel Madrid 名前だけは立派。大学の名前は大きいほどアカン、と聞いたことあるけど、ホテルはダイジョーブかナー。

まあ、そんなこんなで空港ホテルに着いたときは21時半になろうかという時間。なのにまだ日が暮れていないのです。とにかく疲れました。サテうまく眠れるか？ 日本へついたときも、暫くは時差に悩まされました。これも老化現象の一つかな？？

「マドリー(ド)の休日・初日」

昨夜は恐れていた時差の影響もあまり強くはなく、まずまずよく眠れました。日本を朝出て、現地時間のその日の夕方着という時間帯がよかったのかも知れません。日本発が夜で到着は現地の朝というのが一番コタエルのかも知れません。忙しいニッポン・ビジネスマン諸氏なら、東京で日一杯仕事して、次の日目的地で朝から仕事ができるのは実に効率的と考えるのかも知れませんけどねネ。

朝、チェックアウトしてそのまま次のホテルに移動。地下鉄の乗り換えもウロウロせずにできるようにになりました。Hotel Madrid にも迷わず直進。心配していた地下鉄ソル(Sol)駅からの距離も道筋も楽なものでした。

実は前日のホテルのカウンターで、宅配便のことを聞いたのです。手荷物をそっくり持ったままウロウロするのはカナワン、できればカァディスまで宅配便で送ってしまいたい、と思ったのです。

ところが、日本では当たり前のこんな簡単なことが実に大変面倒なのです。カウンターのセニョリータは決して愛想ナシではありませんでしたが、手荷物を自宅に送りたい、ということが納得できないらしく、エッ、ナンデ？ ドーシテ自分で持ってかないの？と顔に書いてありました。

それでもいろいろ調べてくれて宅配便会社の電話番号は教えてくれました。でも電話帳にも営業所の所在は乗っておらず、もちろん彼女も知りません。この種の会社の営業所が空港付近に無いことはありえないのに、誰も知らないし、会社もイエロー・ページに広告でも載せて積極的に営業活動をする気はないらしい。

要するに、スペインでは宅配便らしきものはあるにはあるが、日本のように個人単位で物の大小を問わず便利に利用する、ということではないらしい。個人単位の小旅行で、荷物は宅配便で送っておいて当人は後から手ぶらで、なんてことは流行らないでしょう。セニョリータもそういうものがあることを知ってはいても、自分自身で利用したことはホントにないらしい。勿論、ホテルが代理店契約なんてしてっこない。日本ではコンビニ店のほとんどで扱ってるのにネー。第一、そのコンビニ店というも

のがナイノデス。

そういえば、バスでも電車でもスペインの人たちはヒューと思うような大荷物を持って乗り込んできます。そんな大荷物を持っていったどこへ何をしに？と思うような大荷物です。一週間ぐらいの旅行でもそれぞれが小さいリュックを肩にかけるだけ、
という私達とは大きな違いです。

で、ともかくカウンター嬢に予約はいつすればいいか聞くと、もうそれは明日の朝しかない、という答え。となると、何時に来てくれるかわからぬ運送会社をロビーで延々と待つ光景がアリアリです。結局これはあきらめて、泣く泣く荷物を持ってウロウロすることになりました。だから、朝、次のホテルへ直行となったのです。とりあえず荷物を預かってもらうため。

Hotel Madrid はなかなか便利な場所にありました。どうやら、レセプションにいたおばさんがオーナーかマネージャーらしい。こじんまりした気軽なホテルでした。今夜の予約をしてるんだけど、とりあえず荷物を預かって欲しい、と言うと、ちょっと待って、さっき部屋があいたとこだから、すぐ入れるから・・・。
そのままカウンターの前で待つことしばし、ラッキーにも午前中にチェックインすることができました。

さて、今日は、三路線ある市内乗り合い観光バスを全部はしご乗りしてやろうというプランです。見知らぬ町へきて、あまり時間の余裕がないときは、乗り合い観光バスに乗るのがその町の全貌を知る一番手っ取り早い方法だと思っています。
私たちは以前から、日本でさえそうして来ました。その乗り合い観光バスがこの町には三路線もあって、それぞれが交差することはあっても一部の主要道路以外ではオーバーラップすることはないという好都合。

そして、大人一日券13ユーロ（約1800円）で、三路線全部どこで乗っても、どこで降りても、何度乗り降りしても自由という便利さ。もう貧乏旅行はこれに限ると
いっていいでしょう。

まず、その前に観光案内所へ行ってみなくては個人での観光は始まりません。ホテル

に荷物を放り出してすぐ近くのプラサ・マイヨール Plaza Mayor にあるインフォメーションへ。

案内所の中は各国からの旅行者でごった返していましたが、驚いたことに、入り口を入ってすぐの壁に日本語で、盗難にご注意、という張り紙がありました。

この注意書き、どう考えても市内一般での注意ではなく、あくまでその案内所の中での盗難被害に対しての注意だと思われました。そして、もっと気になったのは、見たところ注意書きは日本語でのみだったようです。

よく探せば案内所内のどこかに別の言語での張り紙があっただのかもしれないが、私たちが気がついたのは日本語のものだけ。ニホンジンは観光案内所の中ですら既にカモになってるのだネー。ハイハイ、よーく気をつけます。



Plaza Mayor マイヨール広場。百メートル角ぐらいのただっ広い広場をこの写真と同じ建物がぐるっと取り囲んでいます。観光案内所は右の尖塔の真下にありました。



案内所で地図も貰ったし、観光バスの資料も手に入れたので、広場の一角で、トリアエズ、ビール。ここのセルベサは、なんとなんと7ユーロ。コパはやや大きめだったものの、私たちが今までにスペインで飲んだ最高値のセルベサ！！セルベサー一杯が我が家の常用ビーノ2本分以上なんて、許セーン。だから大都会って、やだネ。諸事万端何でも高いニッポンだって、こんな高いビールはあまりないでしょう。お気に入りの麒麟・シティーのビールだって500円前後だった。

今回の一時帰国で感じたことは、日本が何でも高いという印象とは少し違ってきたかな？ということ。成る程、高いものはやっぱり高い、でも安いものも結構ありますね。かなり選択の範囲が広がった感じがしました。例えば、百均。大部分は安かろう悪かろうの見本のようなものですが、始めっから使い捨てる気を買えばそれなりに満足できる商品もたくさんあると思いました。私達のウィークリー・マンションのすぐ近くには百均どころか99ショップというのがあって、雑貨はおろか乾物・デリカ・野菜に至るまで何でも99円なんです。この店には随分とお世話になりました。



さて、これが Madrid Vision という市内観光バスのルート・マップの一部です。中央の漫画のような赤い二階建てバス、これで市内の要所要所を回ります。二階には屋根はありません。ギンギラの夏にはちょっときついかも。

上の方の赤い線がルータ・1の Madrid Historico(歴史の)というルート。ルータ・2は青線の Madrid Moderno(近代の)、最後は地図の下半分を回るルータ・3、濃い緑の Madrid Monumental(記念碑の)と続きます。それぞれの色で白抜き数字の入った丸印が各路線の停留所。

地図中央のやや左上青の16番と赤の19番二つの丸がくっついた所、三路線が交錯する所、そこが Puerta del Sol プエルタ・デル・ソル。言わばこの町のヘソ。私達のホテルはその下に見える Café & Té の広告の枠のすぐ右の小さい白い部分です。そして先ほどの Plaza Mayor プラサ・マイヨールはその広告の左側に見える茶色の建物のマーク、緑の9番のすぐ下です。

地図の左端に大きな建物が上下に二つ連なっていますが、上半分が王宮、下半分が去

年の五月、スペイン皇太子の結婚式があったアルムデーナ大聖堂です。
赤い二階建てバスの右側に青の1番、緑の12番、赤の13番が集まっているところ
がありますね、その下の建物がプラド美術館。赤バスの下、緑の3番との間に見える
のがソフィア王妃芸術センターです。

また、カアディス行きの急行に乗るアトーチャ駅、去年三月に電車爆破テロ事件のあ
った、あのアトーチャ駅は右下の斜めになった茶色の三つの長方形です。

ホテルは市内中心部の街歩きには絶好のロケーションにあったわけですが、あとでウ
チへ帰って調べたら危険地帯とされている区域の真っ只中でした。でも、私達はそん
な匂いは毛ほども感じなかったですけどネー。まあ、私達のように、ジャラ銭しか持
ってそうもない風体ではスリやカップライもよけて通ってくれたのかも・・・。

普段の私達の感覚では、ホテルから上記の全ては徒歩圏内で、実際、ツアー・バスに
乗っている時と、カアディスへ帰る日の朝アトーチャ駅まで荷物を預けに行った時以
外はこれらを全部徒歩で回りました。もちろん油断はしなかったつもりですけどね。

緑の3番路線はこの地図の下側三分の二ほどに収まっているし、赤の1番路線もその
大部分はこの地図に入っています。ところが青の2番路線はこの地図と同じサイズの
ものを上方にあと2枚並べたその最上方の右隅にあるエスタディオ・サンティアゴ・
ベルナベウ、例の超お金持ちチーム、レアル・マドリー(D)のホーム・スタジアム
まで行きます。その途中、陰気な日本大使館の前も通りました。

昨日、飛行機をついたバラハス空港は、それより更にはるか右上方で、普通の市街地
図では欄外になってしまい、載っていません。

夫々の路線の所要時間は1と2が75分、3が40分ということになっています。
私達はプラサ・マイヨールでの「お茶」のあと、早速プエルタ・デル・ソルの19番
停留所から赤の1番路線に乗り込みました。以後、遅い昼食のあと2番路線、続いて
再び遅い午後の「お茶」のあと、今度は3番路線、と長い午後は食事時間と「お茶」
以外はほとんどバスの二階席に陣取っていました。

では、市内のカットをいくつかご覧ください。



プラサ・マイヨールからの帰り道に見つけたハモン専門店。このとおり四方の壁は全てハモンでふさがっています。その名も Museo del Jamon ムセオ・デル・ハモン、ハモン博物館。私達もここで久しぶりのハモンの昼食にしようかと中をうかがっていたところへ、日本人団体客が旗を先頭に大挙ぞろぞろとご入場。

こりゃイカン、と私達は急遽通りの反対側にあったベジタリアンの店に鞍替え。テイクアウトを色々物色して王宮横の公園へ。公園の木立の中の涼しい日陰を探してピクニック・ランチ。もちろんセルベサつき。ベジタリアンの店にだってセルベサはちゃんと売っています。周りでは私達と同系統のヒッピーじみたのがやはりボカディーヨなどにかぶりついていました。この場所も後で調べると日本人が頻々と被害にあっている所とか。ホントカネ。私達がそこにいた午後は平和そのものでしたヨ。その各種野菜料理はおおむね良。中でも出色は大豆蛋白のミート・ボール。これはイタク気に入りました。で、その日の夕食もまたまたベジタリアン。ニッポン団体様から避難したおかげでいい店に当たりました。



ハモン専門店やベジタリアンの店があったマイヨール通り。古い建物の連続ですが、さすがにここではマラガやカアディスの旧市街にあるような廃墟になっている建物は見かけませんでした。全体にこざっぱりとした、静かないい感じの通りでした。この写真のまっすぐ前方はプエルタ・デル・ソル。カメラの後方が王宮方面です。

ここは地図では大体緑の9番の位置。私達のホテルはここから徒歩5分。

私達は大都市にはある種の抵抗感があり、なおかつ、マドリー(D)は危険が一杯、という先入観もあって、あまり多くを期待していませんでした。けれども、幸い危険な目に会わなかった、ということもあって今回は十分満足できました。

町全体も思ったより緑が多くて、前にガリシアへの旅で通過したときの印象より格段に点数が上がりました。



これはマドリー(ド)銀座とでも言うべき通り、Gran Via グラン・ビア (そのままの意味で、大きな通り) の始まる所。コーキュー・ブティックをはじめ各種専門店、ホテル、航空会社などがずらり。私達にはあまり用のないところ。建物の雰囲気もイカニモという感じですね。写真がちょっとピンボケなのも撮影者があまり馴染めない場

所ゆえか? 本人はバスが揺れたからと言っております。

ところで、これを書いている今、夏至を迎えいよいよ夏本番に突入です。学校は早くも夏休み。アンダルシアのフライパンといわれるセビージャでは既に40度の声を聞いています。去年は48度という数字に記憶がありますが、今年はどうなるのでしょうか? カアディスではまだ30度そこそこですが暑がりのNは早くも音を上げています。それでも一旦シーブリーズが吹き始めると家の中は吹き抜けになってヒエヒエ

で、Nも生き返ります。長くなりました、今週はこの辺で・・・。

マドリー(ド)の休日・二日目はまた来週。***
